



大 学 院 だ よ り

令和 8 年度大学院歯学研究科入学式

令和 8 年度の東京歯科大学大学院歯学研究科入学式は、令和 8 年 4 月 2 日（木）午前 10 時より、45 名の新入大学院生を迎えました。澁川大学院教務部長による新入生の呼名紹介の後、片倉朗学長と阿部伸一大学院研究科長からの新入生を激励する訓辞をいただきました。さらに、東京歯科大学同窓会富山雅史会長にもご挨拶をしていただきました。そして、最後に新入生を代表して井上暁舟大学院生（解剖学講座）が宣誓し、入学式は終了しました。入学式終了後、福田謙一学生部長による研究の捏造、改ざん、盗用など問題行動による影響が如何なるものかなど、研究に取り組む上での倫理に関する講習会と大学院生活の注意点や履修に関するオリエンテーションが行われました。



訓示を述べられる 片倉 朗 学長



訓示を述べられる 阿部伸一大学院研究科長



宣誓をする大学院入学生代表

令和8年度大学院新入生 学外総合セミナー開催

令和8年度大学院新入生学外総合セミナーは、2026年5月21日（木）～5月23日（土）の2泊3日で、「御殿場高原ホテル・時の栖 Hotel Brush up にて行われました。参加者は、新入大学院生45名と阿部伸一大学院研究科長、澁川義幸大学院教務部長、福田謙一大学院学生部長及び堂地一利大学院事務の大学院関係者の他、生化学講座の大野建州教授、パーシャルデンチャー補綴学講座の田坂 彰規教授に同行していただきました。参加者は、5月21日木曜日の9時に全員水道橋に集合して、バスにて御殿場に向けて出発しました。初日の天気は曇り、暑くもなく寒くもなく、往路順調で予定通り、お昼前に現地に到着しました。昼食、オリエンテーションの後、各大学院生の自己紹介が行われました。各々大学院に入学した動機や各講座を選んだ理由、最近夢中になっていること、大学院生活の目標や何に取り組んでいきたいかの他、趣味、好きな音楽、好きなスポーツ、好きな食べ物、お酒への興味など、しっかりと自己アピールをしていました。その後、大野教授の研究倫理についての講義が行われました。



恒例の集合写真



学外セミナー最初のオリエンテーション

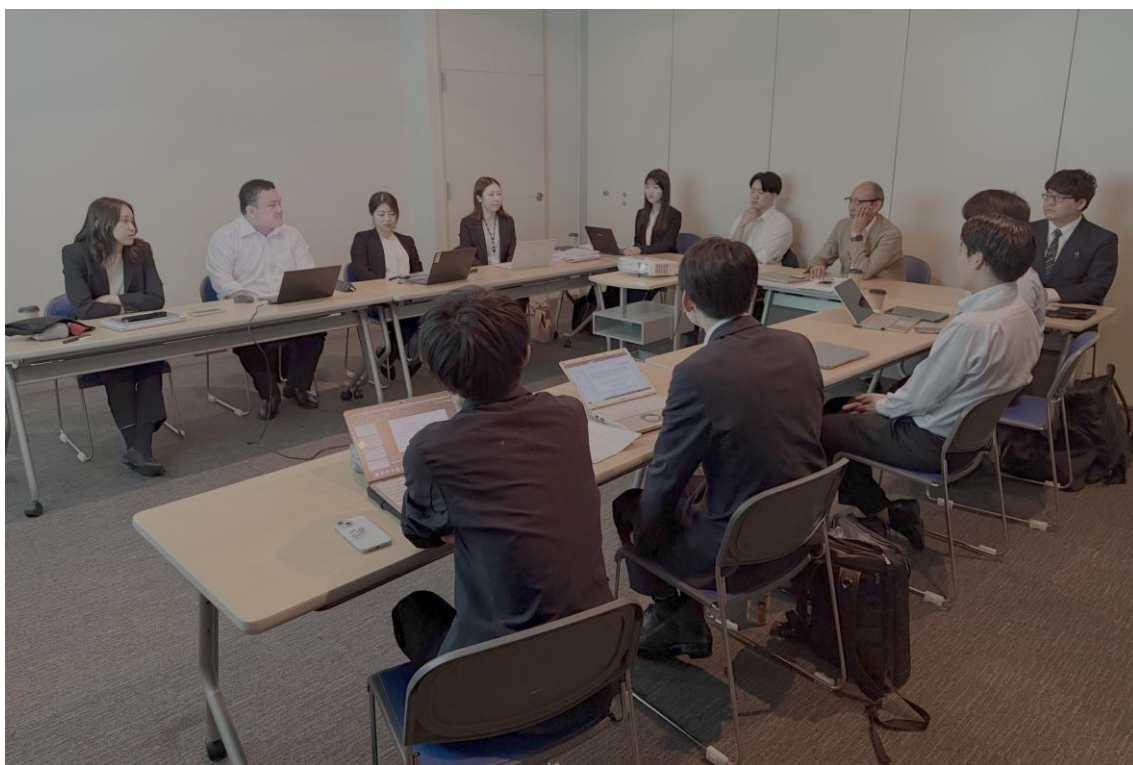


セミナー初日、研究倫理についてお話しされる大野教授

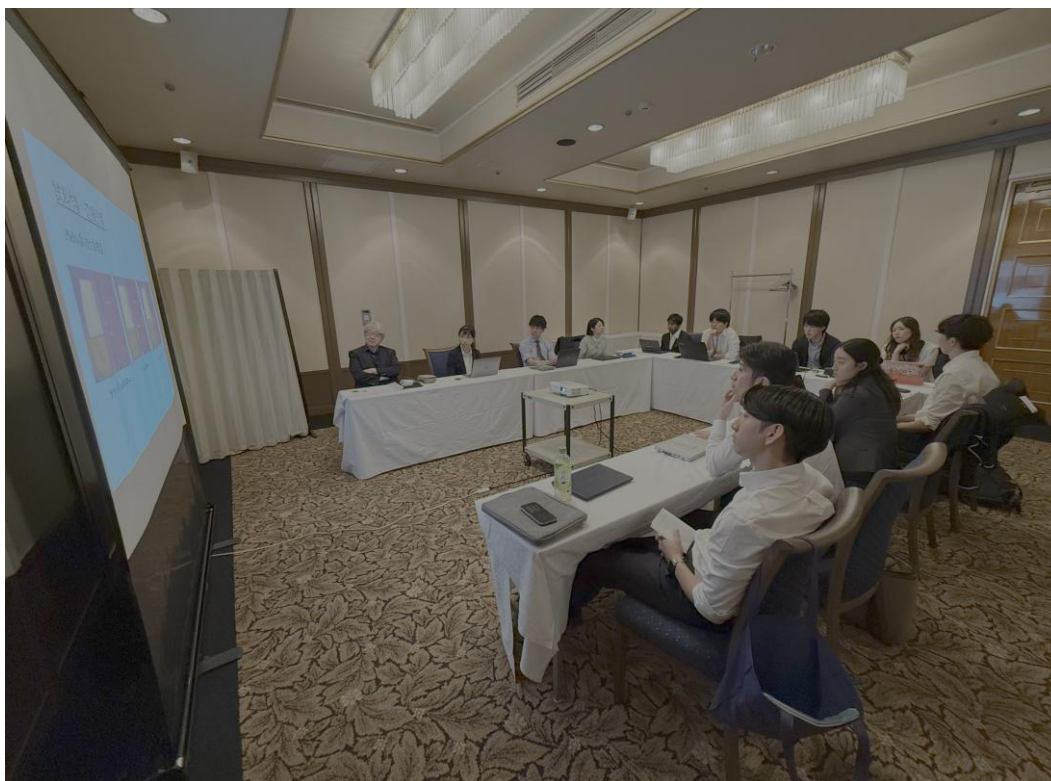
2日目の5月21日金曜日の午前中は、4班に分かれて英語論文抄読発表会が行われました。



セミナー2日目英文抄読発表会：活発な討論が行われました。



セミナー2日目英文抄読発表会：湍川教授の指摘を聞く発表者。

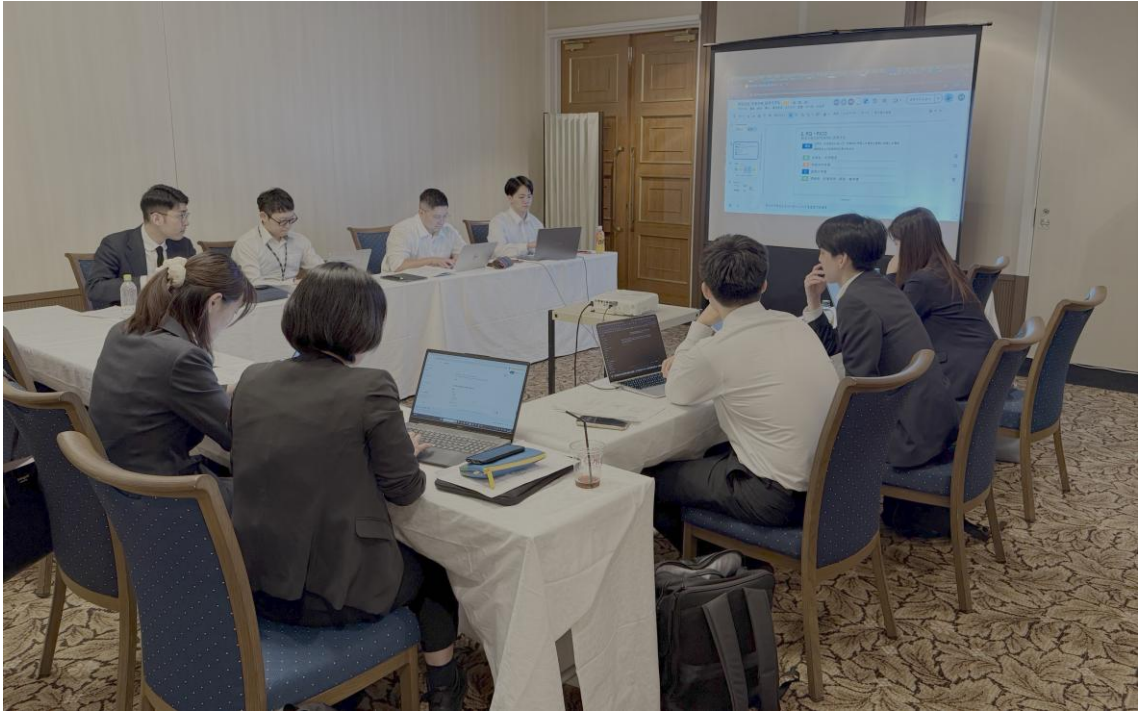


セミナー2日目英文抄読発表会：発表を聞き入る大学院生

2日目の午後は、5班に分かれて Clinical Question (CQ) を提示し、研究方法を検討するグループ学習が行われました。



セミナー2日目課題学習：課題について説明する福田教授



セミナー2日目課題学習：活発に議論しつつ、研究方法を検討している大学院生たち

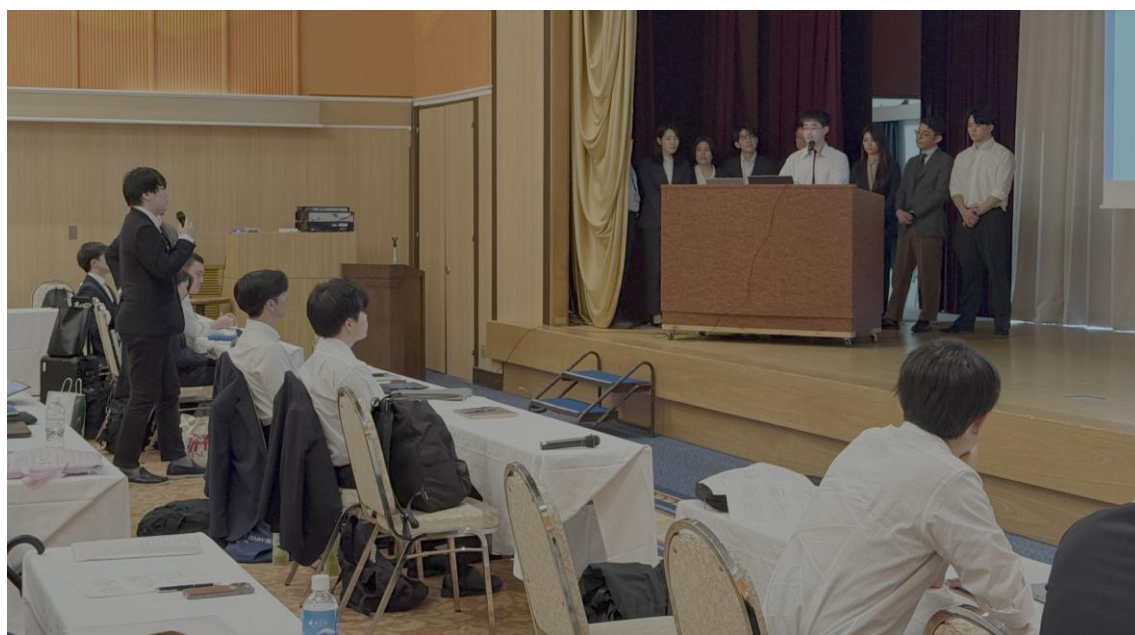


セミナー2日目課題学習：各自のアイデアに対して、意見を交わす大学院生たち

3日目の5月22日土曜日の午前中は、各班がClinical Question (C Q) とその研究デザインについて、発表しました。



セミナー3日目課題発表会：課題を発表する大学院生グループ



セミナー3日目課題発表会：活発な討論が行われました。



セミナー3日目課題発表会：鋭い指摘も出ました。



セミナー3日目課題発表会：他のCQにも興味を持って、意見を交わしました。

課題発表会の後、田坂教授が大学院の過ごし方や意気込みについて、ご自分の経験を含めて講演されました。そして、学外研修の最後に阿部大学院研究科長から閉会の訓示があり、帰路に立ちました。



セミナー3日目：大学院の過ごし方についてお話しされる田坂教授



セミナー3日目：阿部大学院研究科長から閉会の訓示

新入大学院生にとって、大変充実した3日間でありました。英文学術雑誌抄読発表会において優秀賞に選抜された大内慎太郎大学院生、落合研吉大学院生、栢田一輝大学院生、森悠作大学院生の4名に本セミナーの感想記を書いていただきました。

学外セミナー 感想

歯科矯正学講座 大学院1年 大内慎太郎

今回、2泊3日の多講座合同学外セミナーに参加し、研究活動に必要な知識や考え方を幅広く学ぶことができた。開始前は、大学院同期の多くとほとんど面識がなく、初対面に近いメンバーと本格的な討議ができるのか、少し不安を抱いていた。しかし、いざ始まってみると皆気さくで優しく、講座の垣根を越えて意見を交わすうちに、緊張は自然とほどけていった。

まず最も印象に残っているのは、「見やすいスライド」の作成についてである。これまで私は、スライドは情報を多く載せた方が丁寧で親切だと考えていた。しかし、実際に作成したスライドを見比べる中で、文字量や色使い、配置が少し違うだけで、伝わりやすさが大きく変わることを実感した。「詰め込めば伝わる」という私の小さな信仰はあっさり崩れた。発表では内容そのものだけでなく、聞き手の立場に立った構成や見せ方が重要であることを学んだ。

また、研究テーマ作成のモデル討論では、自分自身の研究に対する理解がまだ十分ではないことを痛感した。背景、目的、仮説が曖昧なままでは、研究計画を説得力のある形にすることはできない。グループで議論を重ねる中で、自分では気付けなかった課題を指摘していただき、研究は一人で抱え込むものではなく、多くの人との対話を通して磨かれていくものだと感じた。

さらに、研究倫理や社会とのつながりについて学ぶ機会もあり、研究成果を生み出すだけでなく、それをどのように社会へ還元するかを考えることの大切さも再認識した。発表練習では、主任教授の西井先生、解剖学講座の松永先生をはじめ、多くの先生方からスライド構成や表現について丁寧にご指導いただいた。本番では緊張しながらも練習の成果を発揮することができ、その結果、優

秀賞をいただくことができた。大変嬉しく思うと同時に、この結果は先生方のご指導とグループの支えがあつてこそのものであると強く感じている。

今回の経験を今後の研究活動に生かし、専門知識だけでなく、論理的に考える力、分かりやすく伝える力、そして周囲と議論しながら研究を発展させる力をさらに磨いていきたい。

大学院学外セミナーに参加して

パーシャルデンチャー補綴学講座 大学院1年 落合研吉

この度、大学院学外総合セミナーに参加し、多くの学びと刺激を得ることができました。セミナーでは教授方による講演、英文学術雑誌抄読発表会、グループディスカッションなどが行われ、大学院生活や研究活動に対する意識を深める大変貴重な機会となりました。また、普段関わる機会の少ない他講座の大学院生と交流できたことも、自分にとって大きな経験となりました。

講演では、大野教授からは研究倫理について、田坂教授からは大学院時代の経験や研究に対する姿勢についてお話を伺いました。大学院生活の中で目標を明確に持ち、主体的に行動することの大切さを学び、これから始まる研究生生活への意欲がさらに高まりました。

英文学術誌発表では、自身の専門分野に関連する英語論文を選択し、研究背景や実験方法、統計解析について理解を深めながら準備を進めました。英語論文に触れる機会が少なかったため、内容を理解し、自分の言葉で説明できるようになるまでには多くの時間を要しました。また、田坂教授をはじめとして講座の先生方からは、多くの熱心なご指導をいただきました。自身の力不足を実感する場面もありましたが、論文を繰り返し読み込み、関連文献を調べながら準備を進めたことで、研究に対する理解を深めることができました。当日は緊張もありましたが、自分なりに準備してきた内容を発表し、大きな達成感を得ま

した。また、他分野の発表を聴講することで、自分の専門以外の知識や新たな視点に触れることができ、大変刺激を受けました。

グループディスカッションでは、研究テーマの立案や研究デザインについて討論を行いました。限られた時間の中でテーマをまとめ、研究方法を具体化していくことは簡単ではありませんでしたが、班員それぞれの意見を出し合いながら議論を進めることで、多角的な視点から物事を考える重要性を学びました。また、自分にはない考え方や発想に触れることで、多くの気づきを得ることができました。

最後に、本セミナーを企画・運営してくださった先生方ならびに事務局の皆様、そしてご指導いただいた先生方に心より感謝申し上げます。今回のセミナーで得た学びや経験、人との繋がりを大切にし、今後の研究活動や大学院生活に活かしていきたいと思います。

大学院新入生学外総合セミナーを終えて

歯周病学講座 梶田 一輝

この度、御殿場にて開催された大学院新入生学外総合セミナーに参加させていただきました。セミナーでは、大野教授と田坂教授による講演会、個人での英文学術誌発表、そして課題に対するグループ発表が行われました。

大野教授による講演会では研究倫理や、AIについてなど研究についての根本を学ぶことができました。田坂教授による講演会では、ご自身の大学院時代から今に至る研究内容や、研究から臨床への応用について学ぶことができました。お二人の講演を聞いて、今後始まる研究に対してより一層気持ちが引き締まりました。

英文学術誌発表では、それぞれが選んだ英語論文についてまとめたプレゼンテーションを行いました。発表準備では、英語論文の読解、スライド作りなど慣れない作業が多く、講座の先輩方には連日ご指導いただきました。様々な講座の発表を聞くことができ、全ての発表が非常に興味深い内容のものばかりでした。また、発表後の質疑応答の時間では、たくさんの質問をさせていた

だくことで、より一層理解を深めることができ、大変充実した時間を過ごすことができました。

グループ発表では、身近に感じる CQ (Clinical Question) から、それに対する研究デザインを考え、発表しました。グループ内で全員が積極的に意見を出し合い、自分では考えつかなかった視点や、表現の工夫などを、同期から聞くことができ、とても良い刺激を受けることができました。

この学外セミナーを通じて、様々な講座の同期と親睦を深めることができました。それは日中のグループ活動のみならず、1日の行程終了後の懇親会もあってこそだと思います。同期と円卓を囲み、年齢や、出身大学という垣根を越えて、大学院を選択した理由や、将来の考えなどを語り合ったのも良い思い出となりました。ここで築いた横の繋がりを今後の大学院生活でも大切にし、同期と切磋琢磨して4年間を過ごしていきたいです。

最後に、今回の学外セミナーを企画・運営してくださった先生方や事務の皆様、指導してくださった歯周病学講座の先生方に心から感謝申し上げます。

2026 年度大学院新入生学外総合セミナーを終えて

パーシャルデンチャー補綴学講座 大学院1年 森 悠作

御殿場で開催された大学院学外総合セミナーに参加させていただきました。今年度は参加者が43名と前年度より10名ほど多く、集合時から非常に活気のある雰囲気でした。講義や英文学術雑誌抄読発表会、グループディスカッションなど、大変有意義な時間を過ごすことができました。

英文学術雑誌抄読発表会では、事前に各自が興味のある論文を選択し、その内容を発表しました。論文を読むこと自体がほぼ初めてで不慣れな中、情報を理解し、相手に伝わりやすい形にまとめる作業には大変苦労しました。論文を理解して要点をまとめる能力や、わかりやすいスライドを作成する能力、相手を飽きさせないよう伝える能力が求められ、原稿を読まずにプレゼンできるよう何度も練習を重ねたことがとても印象に残っています。発表会では他講座の発表を数多く聞くことができました。自身とは異なる研究分野の内容ばかりで、どれも非常に興味深いものでした。例年より人数が多かったこともあり質問も活発で、私の会場に限らず、どの会場も活気に満ちていたと聞いています。

グループディスカッションでは、初対面のメンバーが多い中、自己紹介から始まり、身近な CQ（クリニカルクエスチョン）の設定、研究デザインの検討、スライド作成、発表練習までを半日で行いました。それぞれが役割を果たし、積極的に議論へ参加したことで、良い発表につなげることが出来ました。

講義では、研究倫理の基礎やモチベーション維持、研究と臨床の橋渡しについて、講演して下さった先生方の大学院時代のお話を交えながら学ぶことができ、研究者としての意識をより高める機会となりました。

大野教授の「研究倫理は社会からの信頼であり、この研究に 10 年後も誇りを持てるかを意識する」というお言葉や、田坂教授の「大学院時代に基本的な臨床術式・研究手法を身につけ、リサーチマインドを通して真の考える力を養う」というメッセージを心に刻み、研究・臨床・教育のすべてに全力で取り組む大学院生活を送りたいと思いました。今回の学外総合セミナーでは、多くの他講座の同期とも交流することができ、今後も講座の垣根を越えて大学院生同士が切磋琢磨していく良い機会となりました。

最後になりますが、開催にご尽力いただきました阿部研究科長をはじめ、関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

編集後記

本年度は、新たに 45 名と多くの新入大学院生を迎えました。御殿場での学外研修は、とても、有意義な時間となりました。2 日目の学術雑誌抄読発表会、3 日目の共同課題学習発表会いずれも、とても白熱した議論が行われ、積極的に自分を持っている大学院生が多いなと感じました。（福田謙一 記）